

平成 29 年度 活動レポート : ICT活用“稼げる技術”短期習得実践道場

■活動の背景とねらい

管内の主力品目である「りんご」と「ぶどう」は、多くの新規就農者が経営に取り入れたい品目となっている。「里親研修生」は2年間の実践研修で作業適期に学ぶことができるが、農家子弟のUターン者や定年帰農・新規参入者は実践で技術習得できる場所は少なかった。

「りんご新しい化栽培」と「ぶどう短梢無核栽培」は、先進技術でマニュアル化されているため、「短期習得実践道場」を開設して、「実践ほ場」での経験の積み重ねを図り、また、Web上に「情報集積場所」を設け「クroppナビ等」を活用した気象情報や画像、技術資料の掲載により技術習得を補完した形での技術習得を図る。

■本年度の取組と成果

1 技術実践ほ場の設置

(1) りんご新しい化栽培（高密度等）

- ・設置場所：長野市上駒沢
- ・実践品種：「秋映」
- ・道場生：農家子弟Uターン就農者等10名
- ・開講日：平成29年4月25日
- ・講座回数：7回、その他特別講座3回（病虫害・土壌肥料、農作業安全、修了式＋フェイスブック活用）

(2) ぶどう短梢無核栽培

- ・設置場所：長野市真島町
- ・実践品種：「シャインマスカット」
- ・道場生：農家子弟Uターン就農者等6名
- ・開講日：平成29年5月18日
- ・講座回数：8回、その他特別講座3回（病虫害・土壌肥料、農作業安全等）



ぶどう短梢無核栽培 新梢管理実践講座

2 情報集積場所の開設

「短期習得実践道場」Web上に専用の情報集積場所を開設し、①「お知らせ」では、講座案内等の連絡 ②「主要文書」では、講座資料、各種技術資料の掲載 ③「写真・投稿欄」では、道場生からの質問書き込み・写真投稿⇄農業改良普及センター・JAからの回答。④実践ほ場の定点カメラ画像と気象観測情報（1時間毎）の配信を行い、訪園観察のタイミング、技術習得支援に努めた。



りんご新しい化栽培 「情報集積場所」
道場生、農業改良普及センター、市町村、JAのみが閲覧可能

3 農業改良普及センターの支援体制

新たなほ場の開園に向けて、道場生には専任担当者（正・副）を選任し、相談の対応、土壌改良、トレリス等設置、苗木定植方法などの支援を実施した。

りんご道場生9名が技術習得し、うち6名が営農定着。ぶどう道場生は5名のうち3名が営農定着できた。次年度も継続した技術、経営支援を行う。

■今後の課題と対応

平成29年度第1期道場修了生は、生産性の低いりんご普通樹園地を改植、ぶどうの樹形改造の取り組みを行っており、これら課題設定と解決支援を実施する。今後の道場生に対しては、開園に向けた資金利用計画を含めた総合的な支援を行う。なお、平成30年度第2期では、「フェイスブック」も活用して、技術動画情報の掲載、道場生同士・関係者での情報交換、交流の活性化を図る。

(担い手・経営係)